

中学校区におけるめざすことも像	堺市立久世小学校 校長 迫川 智幸
令和7年度 重点目標 対話を通じて、人の思いや考えを理解できる子どもを全教職員で育てる ～評価の工夫を通じて～	

確かな学びの現状 本校の全体的な実態として、学習に課題のある児童が多い。その課題とは、知識・技能面であったり、意欲面であったりと様々である。その中でも「既習事項」の定着が不十分(知識・技能面)で、授業に参加する気が起きない(意欲面)児童が多い。また、別の課題として、自分の思いや考えを相手にうまく伝えることができず、トラブルに発展することがある。これらのことから、今年度も、子ども全員が意欲的に取り組むことができる授業づくりや、「対話」と「評価の工夫」を行っていく。学習指導の重点目標を「人の思いや考えを理解できる子の育成～『対話』と『評価の工夫』を通じて～」とし、子ども一人ひとりが人の思いや考えを理解できる子の育成に取り組む。特に「対話」の部分では、「聴く力」の育成に力を入れ、「評価」の部分では、次のアクションへつなげる評価の在り方を研究する。授業での学びを学校生活や日常生活で生かしたり、子どもが実際に学習してきたことを子ども自らが進んで活用することができる場を設定していけるようにしたい。	豊かな心・健やかな体の現状 本校は児童数の割に運動場が狭く、休み時間だけでは満足に体を動かす時間を確保しにくい現状にある。今年度も体育授業で計画的にいろいろな種目に取り組めるように配慮するとともに、委員会活動を通して体力向上への取り組みや運動への動機づけを行っていく。 早寝・早起き・朝ごはんの基本的生活習慣が身につけていない児童も多く、家庭への啓発が必要である。生活リズム調べを行い、課題の改善に努める。 大規模校であり、生活環境の違いから多様な成長段階の児童がみられるが、その多様性を活かして「ちがいを認める」ことができるように生活のあらゆる場面で見逃すことなく指導を徹底していく。いじめ・不登校などに対して、個々の事案への対応だけでなく、各学級・学年による予防指導と、素早い組織的な指導を進めていく。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	学習習慣の定着	豊かな語彙と確かな計算力を身につけることができる。(学力向上)	作文を書く際、語彙指導にも取り組む。朝の時間やすきま時間を利用して計算力向上の取り組みを行う。	【教員アンケート】 「言葉の力や計算の力をのばすための取り組みをしている。」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「言葉の力や計算の力をのばす学習をしている。」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率95％ 子どもアンケート結果 肯定率85％ ・ドリル・ワークや、プリントなどで基礎学力向上の取り組みを行ったり、「言葉の宝箱」を活用して、語彙を増やす取り組みを行ったりしている。				
	校内研修の充実	「人の思いや考えを理解できる子ども」の育成に向けて、「対話」と「評価の工夫」を視点に授業研究を行う。(研修)	「対話」と「評価の工夫」を視点にして、研究授業、討議会や研修会議を行う。	【教員アンケート】 「授業において、対話を活性化させる取り組みを行ったり、子どもたちのモチベーションを上げるような評価を行ったりしている」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「授業で、自分自身でよく考えたり、友だちと話し合ってよく考えたりしている」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率95％ 子どもアンケート結果 肯定率91％ ・「対話」と「評価」をテーマに研究授業及び討議会を行っている。また、日々の取り組みについて話し合ったり、その成果と課題を毎月データにまとめ共有したりしている。				
	情報ツールの活用	自分の思いや考えをICTを使って表現することができる(ICT)	児童の思いや考えを、発表ノートやパワーポイントなどを使って表現できるようにする。	【教員アンケート】 「児童がICT(タブレットなど)を使って、自分の思いや考えを表現できるように、指導をしている」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「タブレットを使って自分の考えをあらわすことができる」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率71％ 子どもアンケート結果 肯定率82％ ・ICTの研修を夏季研修で行い、授業で活用できるようにしている。また、ICTの活用事例について適宜学年会で共有している。				
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	いじめ・不登校の予防的対策に取り組む。(生指)	予防的対応を視点として、担任(生指)が中心として子どもの変化を見取る。SSWとの連携、学校(授業)での居場所づくり・仲間づくり	【教員アンケート】 「日々の授業の中で、子どものわずかな変化を見逃さないようにし、対応すべき事態があれば、職員同士で情報を共有する」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「学校に行くのは楽しい」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率100％ 子どもアンケート結果 肯定率85％ ・月に1回、職員全体で生徒指導報告会を行い、情報を共有し、必要に応じて対策委員会などを開いている。				
		「あいさつ」ができ、豊かな人間関係を築くことができる子を育てる。(生指)	・全職員が児童に日々声掛けし、児童に常に意識させる。 ・朝礼や委員会などで、啓発する。	【教員アンケート】 「あいさつの大切さを教えたり、あいさつをするように指導したりしている」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「あいさつの大切がわかり、毎日、先生や友だちにあいさつをしている」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率98％ 子どもアンケート結果 肯定率87％ ・朝礼や各クラスであいさつの大切さについて指導を行っている。毎日下校時に各学年1人以上、昇降口であいさつを行っている。				
		「帽子」「名札着用」ができ、安全に気をつけたり、コミュニケーションを円滑にしたりするだけでなく、規範意識のある子を育てる。(生指)	・全職員が児童に日々声掛けし、児童に常に意識させる。 ・朝礼や委員会などで、啓発する。	【教員アンケート】 「帽子・名札を着用するように指導している」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「登下校や、体育、外遊びのときは、帽子をかぶり、学校で過ごす時間は名札を胸につけている」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率98％ 子どもアンケート結果 肯定率91％ ・朝礼や各クラスで帽子や名札着用等ルールを守ることの大切さについて指導を行っている。毎日下校時に各学年1人以上、帽子着用について声掛けを行っている。				
		ありのままの自分や友だちのことを知り、お互いを認め合い、自分や友だちを大切にし、助け合うことができる。(人権)	学校全体で自分のことを知るための「自分マップ」を行い、「つながりのわ」など人とのつながりを意識した教育活動を展開する。	【教員アンケート】 『「自分マップ」「つながりのわ」等の取り組みなど、児童が自分のことを知るための取り組みや児童同士がつながる手だてを行っている。』という教員が90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 『「自分や友だちのいいところを知っている。」「自分や友だちを大切にし、助け合うことができる。』』という児童が90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率88％ 子どもアンケート結果 肯定率92％ ・全クラスで「自分マップ」「つながりのわ」の取り組みなどを通して、児童が自他のことやより良い関わり方を知るための手立てを行っている。				
		カリキュラムマネジメントに基づいた道徳の授業の充実を図る。(道徳)	カリキュラムマネジメントに基づいて道徳の指導計画を立てる。授業参観で道徳の授業を行う。交換道徳を行う。	【教員アンケート】 『カリキュラムマネジメントに基づいて道徳の指導を行った』という教員が90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 『道徳の授業では、友だちの考えを聞き、自分の考えをもったり広げたりすることができた。』という児童が90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率86％ 子どもアンケート結果 肯定率87％ ・月に1回行事やカリキュラムを見直し、関連する価値について考える時間を設けている。年に1回以上、交換道徳を実施している。				
		サポート委員会、ケース会議を活用し、支援が必要な児童について対策を図る。(支援)	支援が必要な児童に対して適切なサポートを考える。	【教員アンケート】 「サポート委員会・ケース会議を活用し、支援が必要な児童の情報を共有しながら、対策を図っている。」の項目が90％以上でA、60％以下でCとする。	・教員アンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率93％ ・毎月サポート委員会、随時ケース会議を行い、支援が必要な児童について対策を図っている。				
		基本的な生活習慣の大切さを理解させ、健康で丈夫な体作りに対する意識改善を図る(保健・食育)	「睡眠指導」「栄養指導」を行い、より良い生活習慣の定着と意識向上に取り組む。	【教員アンケート】 「基本的な生活習慣の大切さについて話すとともに、給食指導の中でバランス良く食べる大切さを伝えている。」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「自分の健康のために早寝早起きを心がけたり、給食を残さず食べようとしていたりしている。」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率95％ 子どもアンケート結果 肯定率86％ ・授業などで、保健指導や食育指導を行っている。毎日給食錠前で栄養教諭が食育メッセージを掲示している。				
		体育が楽しいと感じられる児童を増やす。(体育)	体育授業において、ほめる・認める・励ますなどの肯定的な言葉がけをするとともに、子ども同士が声を掛け合う時間を確保する。	【教員アンケート】 「体育において、取り組み態度や子ども同士の関わりを積極的に価値づけようとした」という教員が、90％以上でA、60％以下でC。 【子どもアンケート】 「体育の授業で、友だちや先生に褒めてもらったり、がんばりや成長を認めてもらったりした」という子どもが、90％以上でA、60％以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	教員アンケート結果 肯定率100％ 子どもアンケート結果 肯定率81％ ・体育の授業や体育参観の練習などで、褒められたり、がんばりや成長を認めてもらったりするような場面づくりを行っている。				
		校長より(年度末)					学校関係者評価者から(年度末)				